

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170500480		
法人名	株式会社 ウェルフェアクリエイション		
事業所名	ソレアド新白岡		
所在地	埼玉県白岡市新白岡8-12-3		
自己評価作成日	平成28年10月8日	評価結果市町村受理日	平成28年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	平成28年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者様の思い出作りのお手伝いができるよう、何を望まれているか、日々考えるように心がけています ご利用者様との会話、ふれあいを大切に、ご家族様からも信頼されるよう、全職員が努力しています</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>・利用者同志好きな囲碁を楽しまれたり、慣れた畑仕事に励む方、収穫した胡瓜や茄子の漬物作りなど、利用者一人ひとりの生活習慣や思いを大切にしたいケアに取り組み、生き生きとした暮らしに結び付けられている。 ・ご家族のアンケートでも、「自由気ままに楽しく過ごしています」、「入居者全体が生き生きしている様に見えます」、「アットホームな温かい雰囲気。職員の方の定着率が良いので安心して施設に預けられる」などのコメントが寄せられ、職員の支援や対応について、高い評価が得られている。 ・目標達成計画の達成状況については、定期訓練では地域協力者の参加を得て、火災発生を想定した訓練に取り組まれている。また、地震や水害などの災害発生を想定し、利用者の所在確認方法や備蓄品の保管を上層階に変更するなど、体制整備に取り組まれていることから、目標が達成されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をスローガンとして、毎日朝礼にて唱和し、意識付けを図っています	職員全員で意見を出し合って作成した業務指針、施設目標のもと、利用者の思いや生活のリズムを大切に、その人らしく、笑顔で日々過ごされるようチームでケアに取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	イベント時近隣の方を招待したり、公園等であいさつをしたり、地域との交流を図っています	散歩や外出時には近所の方と挨拶を交わされたり、夏祭りなど事業所催事でも地域の方や子供さん達と一緒に楽しまれている。その他、ボランティアとの交流を通し、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営委員会で説明しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、ご家族様のご意見、ご要望を伺い、それに沿うよう心がけています	事業所からの報告のほか、参加者から事業所の取り組みに対する意見や要望、アドバイスを頂くなど、幅広い内容での情報交換が行われ、有意義な会議運営をされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の福祉課、介護保険課の方々と連携をとっています	市の担当者とは、運営推進会議でアドバイスを頂いたり、申請手続きや報告、相談時のほか、市主催の勉強会などの機会にコミュニケーションを図られ、良好な協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を実施し、職員全員の理解を深め、意識付けを促しています	法人研修や委員会活動が行なわれ、管理者及び全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、言葉での拘束を含め、行動抑制をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を実施し、身体だけでなく言葉の暴力などないよう、職員同士注意し合いながらケアにあたっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところありません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすく、きめ細かい説明を心がけています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご利用者様やご家族様の声に耳を傾け、それを生かしたケアを心がけています	利用者とは日々の会話の中で、家族とは面会時や運営推進会議などで意見・要望の聴き取りを行っている。利用者の散歩・買物などの外出要望にも速やかな対応が取られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設全体会議で伝える場を設け、職員に浸透させています	全体会議や707会議時などで意見・提案の聴き取りをされている。また、各種委員会でも、発言しやすい環境がつけられ、イベント企画や事故防止策など具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なるべく職員の希望を聞き入れ、働きやすい環境を作るよう努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	技術研修を行い、職員全員のレベルアップするよう努力しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	営業活動を通じて交流の機会の場を設ける所です		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様にとって、今一番何が必要か、職員で意見を出し合い対応しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の面会時には積極的にお話をお伺いし、ご要望にそよう努力しています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様の状況が日々変化していく中で、ご本人様、ご家族様の要望を把握し、サービス計画を立てています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、洗濯物たたみ、洗面台掃除、カレンダー作りなど、共同生活の一部分を担っていただいております		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にお誕生会に同席いただいたり、面会時の写真撮影など、ご家族様を含めた思い出作りを心がけています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の経歴、環境を理解し、話題にするように心がけています	友人・知人の面会や電話の取り次ぎ、自宅に戻りゆっくり過ごされたり、地域の老人会や併設サービスで顔なじみと一緒にレクリエーションを楽しまれるなど、これまでの関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が声かけを頻回にしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談や支援の対応に努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活を送っていただけるよう対応しています	利用者とのコミュニケーションと信頼関係を大切に、寄り添うことで、思いや意向を把握されている。困難な利用者についても言葉や表情・仕草などから汲み取るほか、家族からの情報提供を得て、利用者本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	やっていただく事を決め、毎日続けていただくよう促しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の様子を観察し、気づいた事を生かすケアを心がけています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今何が必要なのかを話し合い、状況に応じた計画を立てています 状態が変化した時にはカンファレンスで検討しています	利用者や家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師の指示を含め、関係する職員で意見交換を行い、その人らしさを大切に、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態、ケアの内容は介護記録にまとめ、全職員に状況がわかるようにしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者が好きな事をすぐにできるような環境づくりを心がけています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園での地域の皆様、子供達とのふれあいを大切にしています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診、及び必要に応じて歯科往診が受けられます	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診支援も適宜行われ、医師への必要な利用者情報の提供を行なうなど、適切な診療が受けられるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の日々の変化を看護職に伝え、その都度対応しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、職員がこまめに病院に行き、情報を得るようにしています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度、終末期の方には職員一同、ご本人様がどうしてほしいか、心地良い環境を考え対応しています	利用者の症状に合わせ、家族から「共同生活終末期契約書」の同意をいただき、早い段階から出来る限りの支援体制を整えている。また、定期的に見取りについての研修も行なわれるなど、体制を整備され、重度化や看取り支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は職員全員定期的に受け、対応できるようにしています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、地域の皆様にも参加いただいています	定期訓練では地域協力者と共に、2階フロアのコンセントからの出火を想定し、初期消火・通報・避難場所への誘導訓練に取り組まれている。その他、煙体験や起震車による地震体験に取り組まれたり、備蓄品の保管を上層階に変更するなど、体制整備に努められている。	災害対策には充分取り組まれています。災害はいつ、どの時間帯に起きるか想定が出来ません。利用者個々の状態を踏まえ、災害毎の具体的な避難方法など、全職員が実践力を身に付ける取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員がご利用者様を敬い、言葉がけに気を付けるよう心掛けています	居室への入室時の声かけや馴れ合いにならぬ言葉づかいなど、利用者の人格を尊重した対応、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮など、きめ細かな取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様のペースでゆっくりと促しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きな事をしていただくように心がけています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を心がけ、衣服はご自分で選んでいただいています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	彩りや見た目食欲がわくよう心がけています	利用者個々の力に合わせ、調理や後片付けなど職員と共に行っている。敬老会では好物の寿司が提供されているほか、手づくりおやつや畑で収穫した胡瓜や茄子の漬物作り、バーベキューなど、食の楽しみを大切に支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護職からの指示で食事・水分摂取量を管理し、その量を確実に摂取しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が声掛けをし、歯みがきを促しています 定期的な歯科往診、口腔ケアで対応しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はなるべくトイレにて行っていただくために、定時のトイレ誘導を心がけています	一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行ない、トイレでの排泄支援に努められている。オムツ類の使用はせず、失敗防止と自立支援に取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとるように心がけています 毎日、自家製ヨーグルトを提供しています それでもうまくいかない場合、看護職の指示で薬使用		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いせず、個々それぞれあった方法を考え入浴を促しています	できる範囲で利用者の希望に沿った支援をされている。入浴拒否の方には無理強いすることなく、利用者の状況に合わせて午前や午後の入浴時間を活用された支援をされている。また、職員複数での介助体制をひくなど、安全対策が取られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は散歩したり、体を動かしたりし、夜は静かで入眠しやすい雰囲気を作ることを心がけています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の情報を理解し、誤薬をおこさないよう、ダブルチェックを必ずしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事や手伝いをさせていただいています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	元気なご利用者様にはなるべく散歩に出るよう促しています	事業所前の公園での散歩や外気浴、畑での野菜づくりなどを楽しまれている。また、恒例行事の日帰りバスハイクや季節毎の花見など、外出の機会を多く持つよう支援をされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	旅行時、職員と一緒にレジにて会計していただくようにしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意志を尊重し、職員の見守りのもと電話をかけていただいています 暑中見舞いもご家族に書いていただきました		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	BGMにご利用者様の好きな曲を流しています	共用スペースにはハローウインの飾り付けや紅葉を配した大判のカレンダー、書道作品などが飾られているほか、大型ソファが置かれ、利用者が落ち着いてゆっくり過ごせるよう工夫をされている。また、利用者の好みの音楽を流すなど、快適に過ごされるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分で移動可能な方は、自由に行き来していただいております		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた家具、道具を持ってきていただき、家にいる感覚で過ごしていただけるようにしています	家族の写真や仏壇などが持ち込まれたり、絵や書道作品が飾られるなど利用者が気分良く過ごせるよう配慮されている。また、毎日掃除の時間が設けられ、共用スペースを含め清潔維持と衛生管理に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、トイレ、手すりを利用し、安全に移動できるようにしています		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名:ソレアード新白岡

作成日:平成 28年 12月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策 水害時・地震時の対策が不十分である。	近隣の方の協力、確保の取り組み	・防災訓練時、近隣の参加を募る。 ・地震時、水害時の対策 ・所在確認を素早く行えるための対策 ・地震時水害時の訓練実施	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。